

---

# 魂ノ賭ケ事

榎本 花音

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

魂ノ賭ケ事

### 【Nコード】

N4238J

### 【作者名】

榎本 花音

### 【あらすじ】

主人公：京平がとあるきっかけで死神になった。

そんな彼の憧れは、出会ってすぐにあつた未来先輩。才能がない彼にとっては一**番**の憧れで見本で、夢で目標。彼は未来先輩目指して頑張っている。

これは仕事に挫折しそうになり、先輩に恋しそうになり、キラキラ青春したり、人を殺したりするお話です。

俺と未来先輩（前書き）

序章

## 俺と未来先輩

収穫、0。

いつもの事だ。そうだよ。俺は落ちこぼれなんだよ。

何の落ちこぼれか？ 答えんのも面倒臭い。それぐらいかったる  
いんだ。

「くっそ…」

俺は鉛色の鎌を床に置いた。どすんという音が響いた。

この「仕事」を辞めようかとも思っている。だが、不可能。人材  
不足のためだ。ああ、忌々しい。くそ忌々しい。

そんな時上から声が聞こえた。

「よう」

「あ、先輩」

俺よりも一回り年上の「仕事」の先輩 未来先輩みらいがそこに  
いた。

「悩んでいるみたいだな」

「…！」

「あれ、ビンゴ？」

ほら、勘が鋭いから困るんだ。俺が。……………忌々しい。

「で、何悩んでんだ？」

畜生。

「……………話します」

先輩はにつこり笑った。一種の合図だ。

「……………最近俺、この「仕事」向いてないと思ってきたんで  
す。ここ一週間魂一個も獲れないんです。それに、…うっっ、」  
「泣くな」

そして俺の頭をくしゃりと撫でた。

「お前はどんなときでも笑顔でいる。どんなに辛い時でも、な。お  
前らしくない」

この時の意味を知るのは、まだ幼すぎた。  
ああ、俺の職業。それは 死神。

**俺と未来先輩（後書き）**

とりあえず今コレだけ。続きは来週中にupします。

## 5 ランク

俺が仕事した中で、最もデカイ仕事に当たった。1万人の人間を殺すことだ。正確には、魂をあの世に1万送る、だ。責任重大になる。

まだまだ半人前の俺にこんな仕事を回すのは、絶対何かある。  
何なんだ ?

「京平」

依頼があつて三日後  
を掛けられた。

つまり仕事開始まで後四日。ふと、声

未来先輩。

「先輩？」

ちなみに、京平というのは、俺の名前だ。

「……何かあつたか？」

「……！」

先輩には仕事のことは話してない。

「まさか………仕事の悩みか？」

なんでこの先輩鋭いよ。

話すしかないのか。

「そうか」

意外とあっさりした反応だった。

この先輩は変に過保護である。まあ時期が来たら解る。

「…」

「だがな、絶対落とし穴がある。気をつける」

やはり、そうか。あの勘が鋭い先輩が「絶対」と言っている。何か起きない訳が無い。

警戒しよ。

先輩の言った意味を知るのには、まだ早すぎる。

後日、仕事ミツムツまでの授業は熱心に受けた。失敗したらどうなるか。想像したくも無いな。

ほ、本当だからな！

ちなみに、死神にも学校がある。俺は、その中でもビリから2番目のクラスにいる。つまり劣等生だ。

人間の頃から勉強は苦手だった。はっきり言って死んでからも勉強、なんて地獄当然だ。

そんないつも1〜3クラス（つまり一番簡単な仕事）ばかりやってる俺がなぜ5ランクの仕事をやんなきゃいけないのか、未だに謎である。

さあ、仕事当日。いきなり地震がおきた。

そういう事か。この地震で亡くなった人を運ぶのか。

俺は鎌を構える。

「いづくぞおおおおおおお！」

なぜかルール上で首を獲ってから魂を奪う、という決まりがある。  
所謂、<sup>いわゆる</sup>

「あっはははははははははは！フルボッコ！」  
死神の本気モード《フルボッコ》。

俺は冷静さと本性を保ちながら、一気に運ぶ。

人間の赤い血。見ているだけで興奮する。

………今、完璧に病んでる。ま、いいか。

「あっはははははははははははははははあぁあ！」

自分崩壊中。その時頭の中で、声が響いた。

「落ち着け」

………未来先輩？

「京平の任務は何だ？ 1万人の魂を送り出すことだろう？ ここ

は戦をするところじゃない。仕事をする場所なんだ」

我に返った。

ここで丁寧に送らなかつたら、魂に傷がつく。つまり、来世に影  
響が出てくる。

『絶対何かある』

未来先輩が言った。それに、上の人達がなに考えてんのか分  
かない。

ここからは本性にできる限り戻らず、冷静に仕事をした。

………結果、<sup>シムツン</sup>仕事成功。

あの時未来先輩が声を掛けなかつたらどうなるか……。想像したく  
もない。

「京平さん。校長がお呼びです」

担任がそう言った。

絶対今回の仕事についてだろう。やるべき事はやったのだ  
。

そして俺は、校長室についた。

「入りなさい」

優しい声が響く。

言われた通りに入り、言われた通りに席に着いた。

暫く談笑していた。

そしていきなり本題に入った。

「君の今回の仕事はよくやったと思う。あの数の魂を一気に。しかも無傷に運ぶとは素晴らしい。今までの君では考えられないほど素晴らしい」

「有難う御座います」

最後の一言は余計だが。

「そこで君にチャンスを与えよう」

「はい。何ですか？」

校長が微笑を浮かべた。

「来月、君にEクラスにはいるための試験を行う」

さらに続けて、

「コレを受けるかどうかは君が決めてくれ。以上」

校長は立ち上がって扉の前に立つ。

「受けるんだったら私のところに来い」

そうして校長は出て行ってしまった。

「…はあ」

確かにうれしいのだが…。じっくり考えるか。

## 進級（前書き）

前回のsgsd小説の続きです。アドバイスももらえたらうれしいです。

## 進級

いきなりだから、戸惑っている。

正直、コレでいいのかと思っっている。

成績は、赤点モノ。実技もできない。毎日魂を獲れない。

「無茶だ……」

しかし、俺のささやかな夢へ近づく一歩になる。

未来先輩に追いつきたい。

俺らの死神の学校はA→Zクラスまである。Aが一番頭の良いクラスでZクラスが馬鹿のクラス（俺はYクラスだ）である。

だから一気に夢に近づくわけだが……だが……！

ここから回想。

俺が死んで間も無く、この「死神会」に引つ張られた。

全てが闇に包まれていた。怖かった。

試しに手を振り上げ、下ろしてみる。何にも当たらない。

叫んでみる。反響もしないで俺の声は闇に吞まれていった。

「誰かいないんですか　！？」

しかも無反応のおまけ付。

「くそっ……」

涙が込み出てきた。こんなに寂しいと思ったのは初めてだ。

……ここでじっとしているのは虚しいので、歩き出すことにした。だが、

「立て……ない!？」

足に力が入らなかつた。試しにもう一回やってみた。

はい、無理。

しょうがないので腹ばいになって前に進む。尤もどっちが前でどっちが後ろなのか判らない。

終わりが見えない。苛々《いらいら》する。畜生。

……そもそもここは床であるのか？ 些細な疑問も生まれてくるようになった。ハイ、重症。まあ進むことぐらいしかすることが無かつたので試しに床？ をこぶしで殴ってみた。

……………(ズボ)。

ゼリーを殴っているような感じがした。待て待て一歩間違えば沈んで死んだんじゃないか!？ ……もう死んだけど。

うだうだ考えても何も変わらない。とにかく前へ進もう。

何も変わらないかもしれないけど。

そして、厭あききれるくらいの時間が経つたある日、

『その少年?』

誰かに声を掛けられた気がした。辺りを見渡すが何の気配はない。

『上だ。上を見る』

言われて上を見る。

綺麗な男が俺を見下ろしていた。

『……一個聞く。お前は死者だな？』  
俺は頷いた。

『じゃあ何故こんな床の地下にいる？』

「待つて言ってる意味が解らない！」

男はふうと溜息をついた。そして、

『ちよつと待て。動くな』

と言われた。言われた通りに待ち、動かなかった。

『a i l i a n ! G o o d b y e !』

何ぞw 宇宙人つてw w w w w w w w

結論：俺は助かった。

ちなみにその男は未来と名乗った。

俺はこの男に惚れてしまった。

近づきたい。

俺の物にしたい。

そうして俺は未来先輩に近づきたいと思ったのだ。

回想終了。

俺は決意した。

（やっぱり・・・俺Eクラスに入る！）

自分の目標だから。

進級（後書き）

すすまねえ W W W W

まあ g d g d なりに続けます W

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n4238j/>

---

魂ノ賭ケ事

2010年10月28日01時03分発行